



平成 18 年度第 2 回三宅島磯根資源調査報告書

東京都島しょ農林水産総合センター大島事業所

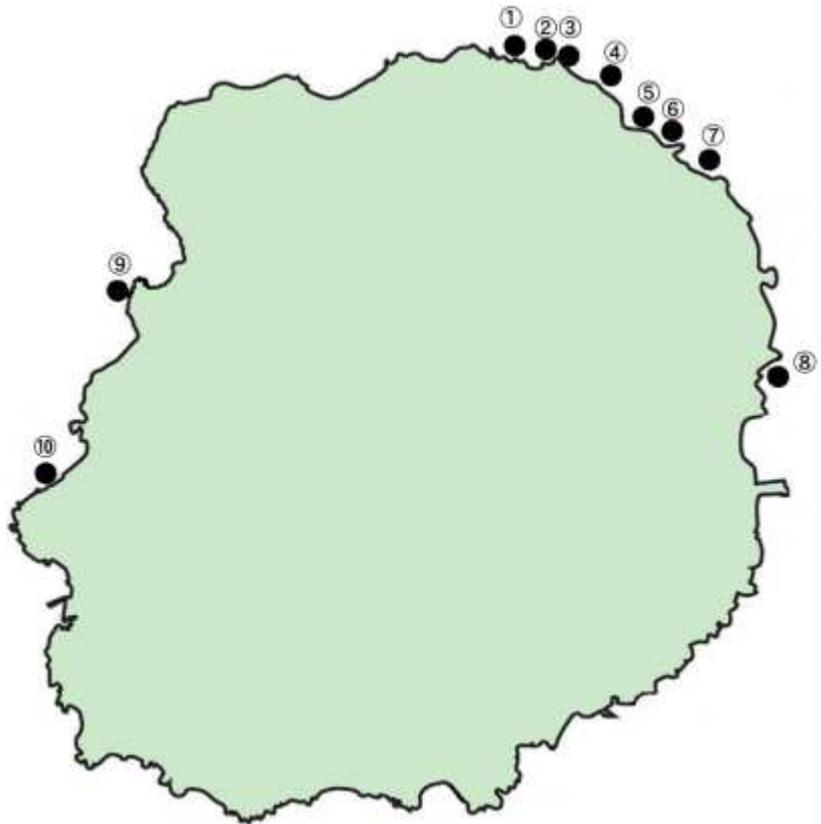
目的：

三宅島において、磯根漁業の産業重要種であるテングサ、サザエ、トサカノリ等の資源調査を行い、漁業者に情報を提供する。今回は北東側 8 漁場と西側 2 漁場の水深 10m 以浅の調査を実施した。

調査日：平成 18 年 5 月 22 日（月）～ 23 日（火）

備 船：第 10 金丸（船長：三宅島漁協沖山邦男組合長）

調査地点：図に示した三宅島北東側の 8 漁場（ ～ ）と西側の 2 漁場（ ～ ）。ただし調査した水深は 10 m 以浅とした。



調査項目：

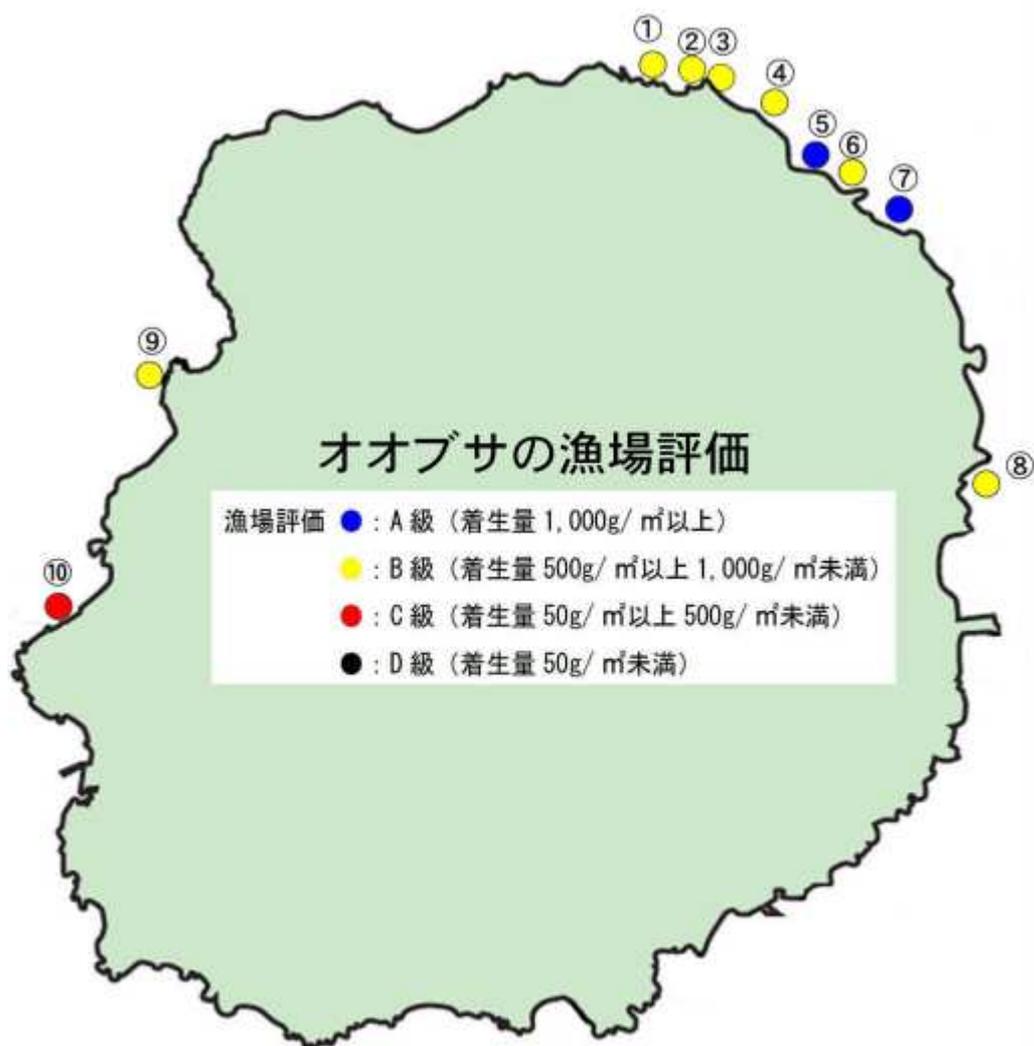
オオブサ、マクサの 0.5 m² 枠取り調査（1 × 0.5 m 枠）によって着生量を把握し、調査地点毎に作柄評価を行った。評価基準は A 級（着生量 1,000g 以上/m²）、B 級（着生量 500g 以上 1,000g 未満/m²）、C 級（着生量 50g 以上 500g 未満）、D 級（着生量 50g 未満）とした。また、枠取りでサンプリングした藻体 10 本の藻長を計測し、平均値を算出した。トサカノリは目視観察により着生量を判定した。

調査結果：

| 調査地点 | オオブサ | | トサカノリ |
|----------|----------|---------------------------------|--------------|
| | 漁場 評価 | 1 m ² 当たり の着生量(g) | 平均藻長 (mm) |
| ウノネ | B | 757 | 191 |
| アコンザキノカタ | B | 745 | 191 |
| アコンザキノシモ | B | 836 | 200 |
| ナダード | B | 978 | 191 |
| アカアナ | A | 1029 | 181 |
| ドンドン | B | 691 | 190 |
| フナボッコ | A | 1044 | 194 |
| オオハシ | B | 830 | 143 |
| カタンザキ | B | 836 | 189 |
| 阿古カマニワ | C | 378 | 132 |

(ただし、水深 10m 以浅)

× (なし)



オオブサ（アラメ）は北東側の漁場 ～ ではいずれも着生量は多く、藻長も長かった。付着物も少なく、良質と判断された。オオハシでは藻長がやや短かったが、これはうねりが強かったためと考えられた。オオハシでも水深0～1m付近では目視で藻長200mm程度の良質のものが広範囲に着生していた。一方、西側のカタンザキでは着生量は多かったが、オオブサが着生できるような水面すれすれの根石が少なく、生育域は狭かった。質は良好だった。阿古カマニワでは根石の波打ち際にはオオブサとオバクサが約半々で混在しており、オオブサの藻長は他の場所と比較して短かった。また、オバクサが混在しているため、漁獲後の仕分け作業等の労力を要することが予想される。



今回調査した ウノネからフナボッコまでは水深0～3m位まで岩のほぼ全面に良質のオオブサが着生していた（左；アコンザキノカタ、右；ナダード）



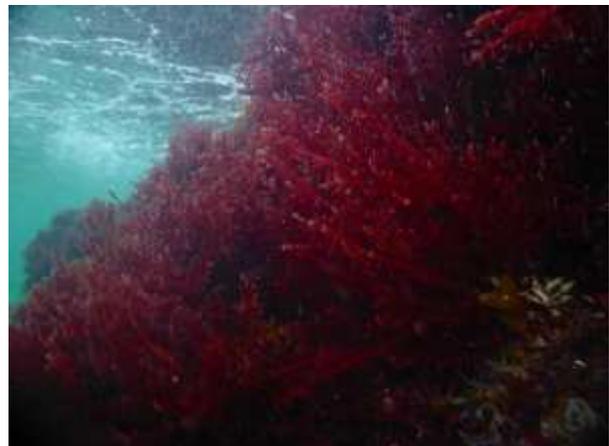
オオネのオオブサは最高品質といわれているが、この日は風ぎだったので、6隻の漁船がこの場所で操業していた。



オオハシでは、波浪が強く、波打ち際での調査が困難であったが、このように長いオオブサがみられた。

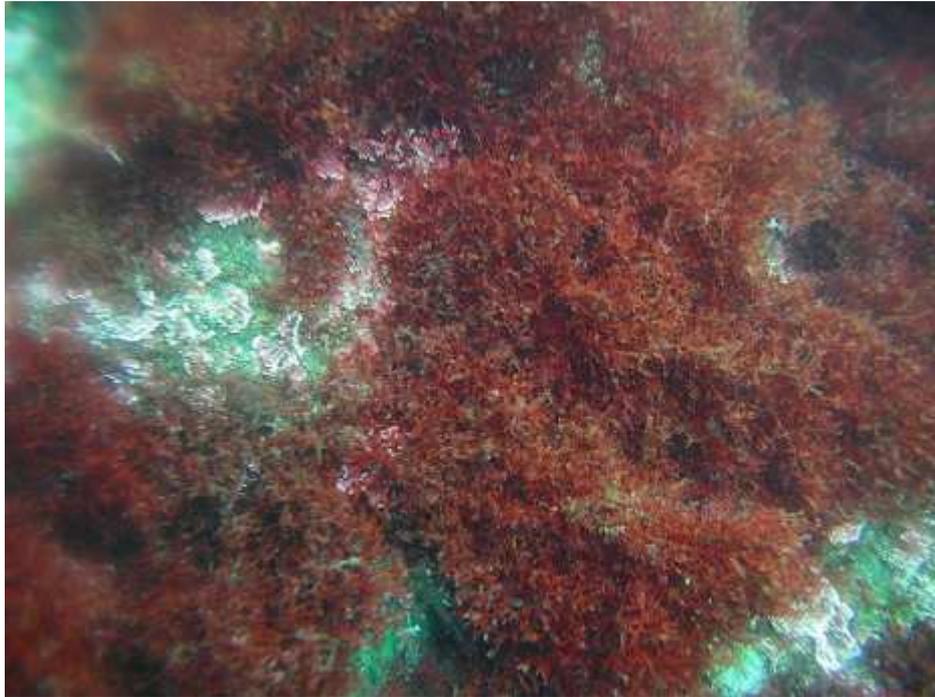


西側のカタンザキでも、このように、波打ち際には良質のオオブサがみられた。



阿古カマニワ南端の断崖の波打ち際にはオオブサとオバクサが混生しており、採取後の選別が必要である。

マクサ（ケグサ）は、全体的に昨年よりも着生量は明らかに多く、水深 3 ~ 10m 付近でよく目についたが、ハナ付き（カギウスバノリの付着）が非常に多く、今回の調査漁場では、良質なマクサ群落はみられなかった。しかしながら、マクサが今年になって急速に回復し始めたことは今後のマクサ復活に向けて明るい材料である。



今回調査した漁場では、マクサはこのようなハナ付き) がほとんどであった。

オバクサ（ドラクサ）は、今回調査したほとんどの漁場の水深 3 ~ 5m 付近で多くみられ、マクサ同様昨年と比べて急速に回復していた。ウノネや フナボッコ、阿古カマニワではカーペット状に広域な群落を形成しており、付着物も比較的少なかった。



オバクサ群落（左；フナボッコ、右；阿古カマニワ）

オニクサは、オオブサ同様高級品で、高値で取り引きされている。本種はオオブサよりもさらに浅い水面すれすれの岩礁域に着生していたが、今回の調査地点では量的には少なく、まとまって採取することは困難と考えられた。

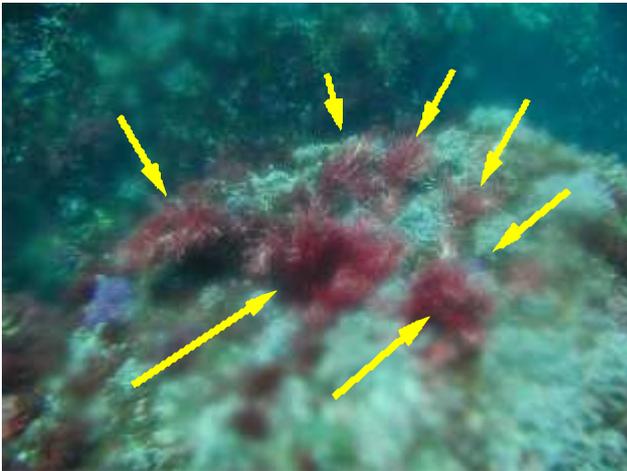
トサカノリは水深 10m より浅い場所に限定しての調査であったが、ほとんどの漁場で藻長 10 ~ 30cm 程度のものがみられた。特に、アコンザキノカタやカタンザキは広い範囲で比較的多くみられた。一方、ウノネやナダードでは全体的には多くはなかったが、所々で高密度に着生していた。



ウノネ



アコンザキノカタ



ナダード



カタンザキ

フクトコブシはオオハシで詳細に調査した。オオハシでは様々なサイズがいずれも多くみられたが、放流貝は確認できなかった。フナボッコやカタンザキでも天然貝がみられた。

サザエは今回調査した漁場では、いずれも生息は確認できなかった。特に、昨年多かったオオハシでは詳細に調査したが、全く確認することができなかった。昨年までは今回調査した ~ の漁場では容易にサザエが観察されたことから、サザエ漁やエビ刺網による漁獲強度が大きかったことが示唆された。

・**アントクメ (ヒロメ)**はウノネで 1 株とオオハシで多数確認できた。アントクメはトコブシやサザエのエサとして非常に重要であり、この時期はまだ藻長が短いため目立たないが、これから夏にかけて急激に生育するので、今後が楽しみである。



ウノネでみられた1株



オオハシでは多くみられた

調査: 東京都島しょ農林水産総合センター大島事業所
安藤和人
滝尾健二
川辺勝俊(とりまとめ)
向山常比古
漁業調査指導船「やしお」小湊教行船長他乗組員6名